

「エアコンフィルターに学ぶ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

本校の教室には、大型のエアコンが設置されている。実験観察室(理科室)にも2台のエアコンがあり、冬の寒い時期や、夏の蒸し暑い時期には、能率的に授業を進められるので、大変助かっている。先日、実験観察室の暖房の効きが急に悪くなったので、フィルターの掃除をすることにした。



エアコンは高所設置されているので、フィルターを清掃する時は、専用のボタンを押して、細いワイヤーで、ユニットを下降させる仕組みになっている。



フィルターユニットは、1分ほどで手の届く高さまで下りてくる。あれ?あまり汚れていない・・・実はこの面は上面で、空気中の塵がつくのは裏面(下面)なのだ。この時はちょうど中休みで、3時間目が理科のクラスの子どもたちが何人も寄ってきて、興味津々に覗き込んできた。

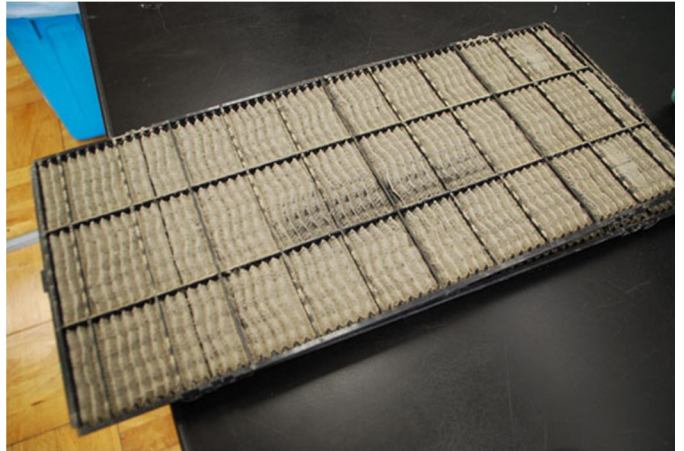
「先生、何してるんですか?何か面白そう!」

「エアコンの掃除?あ、フィルターだ、これ」

「わー、スッゴ!ほこりだらけ!」

「もしかして、何か月も掃除してなかったんですか?」

最後のは、耳の痛い質問である。確か最後に掃除をしたのは、3か月も前だった。



これがフィルターの裏面である。3か月分の空気中の塵を集めたのだから、大変な「積みりょう」である。これだけ積もれば、効が悪いのは当然である。



フィルターは塵を効率よく集められるように、凹凸や波型になっている。全体的には白っぽい色をしている。このほこりの「正体」は何だろうか?奇しくも、見ていた子どもたちからも、その問いが寄せられた。

「先生、そのフィルターのホコリの研究してみたい!」

「顕微鏡で見たら、ホコリが何かわかるよ、きっと。」

「今日の授業で見させてください!」

うーん、今は「ものの溶け方」の単元の学習中である。この単元と、エアコンのほこりは、一見無関係に見える。しかも、単元の指導計画にはなく、時間がない。しかし、私は子どもの思いを優先し、エアコンフィルターのほこりを研究させてみることにした。